

87

特 251



311

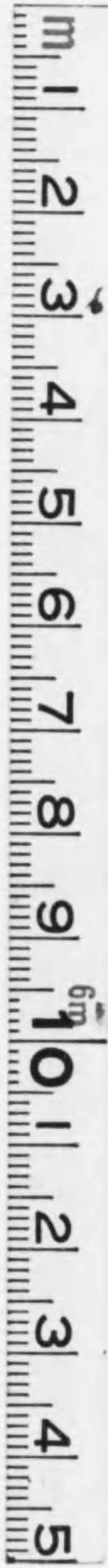
日鐵の異動をめぐりて
北村輪西製鐵所長を截る

渡邊製鐵所長は

何處へ往く

日鐵社内に於ける傑出せる彼の動向
は最も興味をもつ。將來性に富む彼の
針路を論じた一文——

10



始



特251
311

日鐵パンフレット



渡邊製鐵所長何處へ往く



洞海日日出版部發行

目次

一、渡邊所長ごころへ往く……………	一
一かどの事業屋さん……………	二
八幡製鐵所との關係……………	三
金に困らぬ有難い人種……………	五
正に天衣無縫の辯舌……………	七
興味ある渡邊君の針路……………	八
一、珍らしい明朗所長北村保太郎君……………	一二
一、久富商事をめぐりて……………	一六
一、阿部彌一君ごはごんな男か……………	二〇
一、日鐵異動評……………	二四

渡邊所長ごころへ往く

飛躍性に富む君の將來

一 記者

渡邊八幡製鐵所長は何處へ往く——こんな課題を出したら、明日の日にも榮轉ぢやないか。早合點する人もあるかも知れぬ、況んやそこを着け目にこんな見出しをつけたなどと思はれては片腹痛い。考へても見よ渡邊君と雖も萬年所長ではあり得ない、藝が身を助け過ぎて、九州の片田舎？八幡に封し込められることは、或は君にとつて悲しいことかも知れぬ。

非常時局に際し、國策たる製鐵事業の大業をなす八幡製鐵所に號令する所長さんなら、大威張りぢやないかなど、慰めるには當らない。いかに周圍から百万遍『名所長』と拜み倒されやうとやはり東京の檜舞台で大日鐵に君臨する大幹部に飛躍したいのは人情として當然である。また君

の才幹から考へてもまづ八幡あたりで焦げつかすより、もつと使ひ途の多い地位に君を起たしむることが必要である。

「かどの「事業屋」さん

中井社長に買はれた才能

渡邊君は日鐵「三羽鳥」の一人である。曾て中井所長が八幡の長官からジャンプする時、後任者として満腔の信頼をもつて推舉して所長たらしめたのが、この渡邊君である。

従つて君が八幡製鐵所長としてハマリ役だつたことして決して不思議でも何でもない。いまの日鐵社内では君より數等低い努力によりて、數等高い地歩を占めてゐる人間もゐるかも知れぬ、君は形の上では中井社長の直系ではあるが、越後系でもつミ財界のエラサミ結びつけられてゐる。とまれあの重厚な些事も苟くせない性格は商工省畑時代でも逸足を稱されたものだつた。殊に君の經濟學的才能は他の追従を許さぬものがあつて、今日營利企業としての日鐵にあつて、製鐵鋼事業を經濟的運營することの手腕に於て、中井社長の最も頼み得るものは渡邊君である。それほ

ど君は製鐵所をよく消化してゐる、今では役人臭の殘滓を若干留めるにしても、いい「事業屋」になつてゐる、事業的に見て「働きのある間に合ふ男」になりかけてゐる。本業の商工省書記官で働つてゐたなら、よしや局長になつても今日此頃のやうな、所謂「つぶしの利く」人間にはなつてゐなかつたであらう。

八幡製鐵所との關係

販賣部長として成功した

順序として此處で渡邊君と八幡製鐵所の關係を回顧して見る。大正五年頃、君は既に八幡に經理部倉庫課長として、例の産聯常務理事の膳桂之助あたりと仲よく在職してゐたこともあるが、本格的に腰を据へたのは昭和五年からである。

その年製鐵所理事に任命され販賣部長となつた、販賣部長としては地味ではあつたが、その手堅いやり口と敏捷さは好評を博した、その頃の販賣部長などというとなつと、随分周圍に陥穽があり、三井や三菱あたりの手も、怖ろしい程のびてゐた、今でも傳へられる挿話だが、ある商人が好個

の拂下品種に着目し、案をつくつてある販賣部長に、拂下方の伺ひを立てた。部長は仔細を聴くや膝を叩いて「そりやいい考へだ、早速實行しやう、明日にでも三井に拂下げやう」といつた、これには伺を立てた商人は開いた口がふさがらなかつたといふ話である。

當時の渡邊販賣部長は認諾を苟くせなかつた、この部長をウンといはせるのは商人連にとつて骨だつた、その代り一度承諾したら必らず實行した、テキパキとやつた、商人連に對して思ひ遣りがあり、決して商人を痛い目に遣はさなかつた、そして「販賣」の効果をあげたのだつた、腹藝の人間だつた。正直なところ、今日製鐵所出入の商人に問へば、販賣部長としては渡邊さんがよかつたよ、『衆口一致』するあの人には安心してお願が出来、取引する上に充分信頼してやれたものですよ——といふ。

昭和五年十月、短期間の販賣部長から總務部長に榮進した、爾來時の中井長官を補佐して不況時を切抜けてから、製鐵合同工作へ——と三年半近く目醒しい活躍をやつたものだつた。三十餘年の古い歴史をもつ製鐵所の日鐵への引継ぎは容易な業ではなかつた、然し君は甘んじてこの『椽の下の舞』に孜々として辛勞を惜まなかつた。

四

合同實現により、報ひられる日が来て、初代所長となり今日に至つた、早いもの、日鐵が出来て足掛六年目、そろ／＼渡邊君の腰がモチ／＼し出したのも無理はあるまいと思ふ。

金に困らぬ有難い人種

そこで金放れも美しくしい所長さん

渡邊君は言ふ迄もなく日鐵の取締役である従つて日鐵唯一の重役所長さんでもある。君が日鐵重役としての強味は、日鐵の原動力たる八幡製鐵所をシツカリ呑み込んでゐることである、他の財閥代表や官廳代表の重役が多くは看板倒れなのに較べて、正直なところ日鐵の機關長であり、航海長である素質をもつてゐる處に他の追従を許さぬものがある。

もう一つは君が經理計數に明るいことである、大學は經濟學部を出て、曾し八幡の倉庫課長をやり、若い時代その道を叩き上げたのがいい業になつた、所長としてこれ位經濟眼があれば仕事に涉るのも當然で、磯谷が次長時代ある課長の如きは、調査書類をワケの判らぬ磯谷にくどくど説明するのを避けて、渡邊所長に先に持つて行つて説明する、所長は、これでよろしい僕はすん

五

だからアトで隣りへ見せて置け——こんな調子だつたから磯谷は日鐵から敬遠され華中鐵礦へ轉身した、磯谷の坎の悪さは八幡市製鐵業税問題の時數次の折衝に市長以下が手を焼いたので試験済みである。

こうした恵まれた素質に加へて、それを適時働かしうる才能をもつてゐる、日鐵の『張子房』といはれ、運がよければ『社長』にもなれやうと見られる所以もここにある。『おけさ節』の『雪の』の生れ、ことし五十二、金に不足のない結構な家柄に生れ、お蔭で貧乏の味を知らずに濟み、此頃でも五千圓の年俸なんか秘書係任せで手にも觸れぬ、月々の料理屋の支拂に自腹きる分でも五百圓は下らず、納税月などは不足額を頂戴に秘書係りが所長室に罷り出る。

商工省時代、腰辨の長者？番附ではいつも横綱で、金放れが美しく、『磯谷の割勘』といふ蔭口とは對蹠的に人氣があつたのも、金のあるだけに嫌味のない君の半面を見出しうる。

あれで日本石油の株主さんであり、朝鮮の金山にも手を出すといふんだから大したもののである君の主なる持株を見ても日鐵株は舊二百株、新五百株で時價二万五千圓、日本石油株、舊五十株新二千二百株、時價十三万六千五百圓、その他小口の公社債數知れず、お國には不動産もあり、

東京には家作をもち、現ナマは年々幾何級數的に殖へてゆき、年間のボーナスでも三万圓を下らぬといふから、同じ製鐵所勤めでも、腰辨下げて春慶塗の机の上で新聞の切抜圍碁にヘットライトのやうな眼をむいてゐる人種とは少し違ふ。

正に天衣無縫の辨舌

そろ／＼、滋味が備つてきた

頭はよし、金はある、腕は立ち地位はあるで、これで女の捨てて置く謂れはなく、色の黒いのは我慢して貰ふとして、門司あたりのワンサが随分たかりたがる。ゴルフで渡邊君が別府の中山旅館に納つてゐる頃ともなれば、門司の美くしいところがワーさん／＼で押し寄せる、あれで吞めば長唄位は出る、磯谷仕込みの『號外屋』の一席は好評噴々たるものがある。

忍冬を煎したやうな顔をしてゐるが、あれで話はわかり、程もよい、口は悪いが筋は立ち、一言以つて蔽へば『頼もしい男』である

演説でも一席やらして見給へ、堂々たるものである。若槻式に天衣無縫である。言々句々それ

が一つの文章になつてゐて取巻連もヒヤ／＼する心配がない。

今日製鐵所内一人として信頼せぬものがないといふ程、これだけの聲望を博したのも結局、君の天稟の然らしめるところといふ外はない。

壯年時代の華やかさを失つた代り、滋味と氣味を加へてきた。一寸會つても、奥行のある性格を領かしむるものが多い、本社に出かけて行つても、田舎の作業所長扱ひされぬだけの貫祿が備つてきた。先般中支方面へ出張した時なども、前に本社の長崎購買部長あたりが出掛けて叩頭主義で振り撒いて随分人氣を悪くしたアトをうけて、渡邊君立派に日鐵の箔をつけて來て、

『やはり渡邊所長はエライ』

と折紙をつけられた。尤もあの方面では『日鐵』などいふよりも、やはり昔のままの『八幡製鐵所』の方が通りがいい。

八

興味ある渡邊君の針路

何處へ向けても間に合ふ型

さて『渡邊所長は何處へ往く』——のお題目に觸れなければならぬ。八幡製鐵所が 日本製鐵

に衣替へした時、八幡から重役に中井、野田、渡邊、景山、黒田の諸君が商工畑を代表して入つた、ところが野田逝き、黒田退き、景山また本社常務にジャンプして、渡邊君が現在では日鐵切つての地方在住唯一の重役となつた。

渡邊君も屢々本社常務への榮轉を噂された噂ばかりでもなく昭和十一年には稍々具体化しかけたことがあつた、筆者がこの報道をモノした時渡邊君

『そりや君の辭令だろ、尤も僕は取締役として常勤してゐるから實質的には常務かネ』と笑つたことがあつた。

然し内心君も、常務にして華やかなる本社で采配を揮つて見たい野心は充分あつた。これに較べると景山君など運のよい男で、野田常務が副社長にもならず病に斃れたお蔭？で、技術常務の振合上、うま／＼本社常務に破格の拔擢をうけたなど、人間の果報はどこにあるか判らぬ。

ところが渡邊君なるミ、本社常務に入るには、その前提条件がありすぎる。即ち現在の本社常務は、中井社長股肱の中松眞卿に、技術畑の景山齊、販賣上の統率者澁澤正雄、大藏省の目付役飯田九洲雄の四人建である。

當然中松の入る前に渡邊君がその椅子に据り、常務として本社の代表取締役たるべかりし筈である。然し、今日となつて見るに、中松の方が特許局長官もやり、随分古参なので、渡邊君貧乏籤を抽いた譯である。

従つて本社の常務増員でもない限り、現下の分布状態では常務の椅子は困る、中井社長も、もう引退してよい潮時であり、早晚實現するが、アト釜は濼澤常務あたりのイキのいいのが虎視眈々だらうし、或は國策會社の建前から、平生あたりの介添へで筋どころが迎へられるかも知れぬ。

さうなれば渡邊君の常務は太鼓判である、出來うれば渡邊君のやうな有能の人材を本社の中樞部へ持つて行つて、思ひ切り、鮮やかな働きをやらせたいが、サテとなると本社内にも渡邊君の常務進出を煙がる連中が居るのではないかといふやうな氣もする。どちらかといふと、切れすぎるので敬遠されてゐるやうな節もある。そこに氣の着く平生會長は、渡邊君を北支へ持つて行きたいやうな口吻だと傳へられる。

何れここ一二年の間には日鐵中樞陣に大搖れのあることは或点まで豫想される。今日の日鐵は

だん／＼商工省張りの色彩が蔽れつつある。それは濼澤あたりの活躍が大きな日鐵の推進力となりつつある現勢に鑑みて、お役所的色調から脱却しつつある感を充分與へる。

一寸眺めても、平生を會長に引張つて來たり、海軍中將の梶原忠平を八幡の次長に据へたり、住友銀行の太田民治を本社の會計課長に振り向けたり、漸時日鐵色が明瞭な變化を示さうとしてゐるのに氣がつく。

思へば渡邊君の前途も見様によつては興味深いものがある。朝鮮の某金山に金を出してゐる關係上、朝鮮入りをいはれるかと思ふと君と君と淺からざる關係をもつ某實業家の肝煎りで日本石油入りが傳へられ、燃料國策への轉換を取沙汰される。

どこへ持つて行つても一人前以上に充分通用する、そこに渡邊君の強味があり、才腕が目される所以でもある。地元には言はせるに、八幡の所長さんで何時迄も置きたいさうである。本人にとつてこれ位迷惑な話はない。即ち渡邊所長が内外から今や話題の人たらしめられる理由が呑み込めるであらう。

筆者等は一度は日鐵の社長をやらせて見たい男であると思ふあの激潮たる手腕家に存分腕を揮は

せて見たい、むつとり右門張りの顔をしてゐるが、俗臭がなく、行つて誤りのない仕事ぶりに惚れさせられる。適材だといつて八幡所長に、ペン／＼燻らして置くことは不経済である。切に君の飛躍を期待するもの筆者一人ではあるまい。

珍らしき明朗所長さん

輪西製鐵所長北村保太郎君

日鐵の擴張工事中新設を除いて特に興味を惹くものは北海道室蘭市の輪西製鐵所の建設工事である、輪西は元來三井系の北海道炭礦鐵道株式會社の手で明治四十年創設せられたのに初まり、その翌々年作業を開始し、爾來、北海道製鐵、日本製鋼の支配を経て、昭和六年輪西製鐵株式會社となり、昭和九年日鐵の傘下に合同せられ今日に至つたものである。

その地理的關係からいつても、石炭その他の原料關係からいつても、日鐵の重要な構成の一つであり、擴張の余地を存し、八幡製鐵の行詰りに比し、既設作業所中、最も囑望されるのも故なきに非らずである。

よつて日鐵では今次の大擴張に於て三百五十トン熔鑪一基を増設し更に七百トン熔鑪三基の建設に着手し、その工を急いでゐる、輪西製鐵所長は合併後横田文吉君を所長として引繼ぎ當らしめてゐたが、この多難な擴張時代に處し、所期の目的をあぐるため、横田君の退職と同時に本社の販賣部長や経理部長をやつた理事北村保太郎君を昨年所長に推し、今や君の特異ある經營にまつて、着々擴張完成への道を急ぎつつある状態である。

x

北村所長は、毒氣のない人間である。源五郎鮎の琵琶湖と、蟬丸の逢阪山に挟まれた天津の生れ、大正五年の東大出で、商工省のお役人として、製鐵所理事、販賣部長當時、製鐵合同に際し、日鐵に入りてその儘、本社販賣部長として才腕を揮つたものだった。

何しろ大日鐵の大番頭さんである、大手筋から何の彼のと小突かれるのは當然である、然し君の信念は一切を除けて随分切り廻したものであつた、君の蔭には現大阪製鐵所長の阿部雅雄君が次長として在り、創業早々の日鐵の販賣機構に劃然たる型をつくり出したことは有名である。

君の遣り口には一点の邪氣がない、下らぬ駈引がない、御機嫌とりがいい、更に暗黒的な融通

性がない、千軍萬馬の大手筋は扱ひ難いので、詰らぬケチをつけたがつた、然し君の毅然たる態度には寸毫の變りもなく、自分の考へ通りやつた。

その結果がどうであつたかは、立場／＼によつて批評が違ふだらうが、販賣部長をやめて經理部長に納まつた時、君は省みて、何ら思ひ残すこゝがなかつたであらう、思ふ通りやつた、尤も充分やり盡したわけではないが、今後の販賣部長に對し或る示唆を残したことは儲かである。

正直なところ君は決して役人時代、上司からも同僚からも憎まれなかつた、氣に喰はぬとチョイとサボつたりしたが、邪氣のないだけ、本人も周囲も、少しの蟠りが無い、飲めば稚氣横溢、見るから可愛い男である、新橋あたりでキーさんの茶目ぶりは徹底したものだつた。

他人の懷中を云々するのではないが、正直なところ君は喰ふに困らぬ人種である。色は黒いが男ぶりも満更でなく、近江商人の本場に生れて圭角もなく、鷹揚さもあり、仕事も出来る、何といつても日鐵社内でも明朗な存在である。輪西の一苦勞は、おそらく君にとつていい修養と思ふ、社内の連中も君の現場智識の吸収の意味から輪西轉出後の君の將來に期待してゐるものが多い。

あれでゐて誰の前に出ても憚らず自分の意見を述べる、そこに君のいいところがある。覇氣に

乏しいやうな觀察を下すものもあるが、あれで三高時代随分暴れたものである。中支に行つた磯谷光亨や、瀧川刑法で問題を起した瀧川幸辰など無二の學友であつた。面白い話がある君の令妹は郷里で『大津小町』といはれるほどの美貌の才媛であつた、これに傾倒した當年の磯谷は、敵本主義から北村君を誘つてポートに名を藉りて、京都から大津へよく出かけたものであつた、北村君の家へお百度踏んで張つたものだつた。

然し遂に恵まれず數年後令妹は『瀧川夫人』になつたといふ挿話がある。

x

君に望ましきものは更に一段の『熱』である。相當の實行力をもつ君を大成せしむる上は、熱氣横溢の君たらしめたいと思ふ、文字通りいい男であり、唯にも好かれる型であるだけ、君の銳角に磨きをかけたい、その意味で、輪西の何年かは、おそらく、君の性格のト、すくなからぬ好ましき變化を與へるであらうことが豫想される、切に健闘を祈る所以である。

『久富商事』をめぐりて

順風満帆の業態と首脳部

煖爐を圍む人々の論議

ある會社でのストーヴをめぐりて、批評好き甲といふ新聞記者と、乙といふ會社員と、丙といふ御用商人がこんな話で忌憚なき應酬をやつてゐた。外は雪模様の如月の窓から、時々霰らしいのがバサ／＼飛び込んでくる。

八幡で一番儲けてゐる個人會社は久富商事だネ、無論經營もうまいし、相手が製鐵所まできてゐるから、數量的なだけ、單位は安くても、随分利益をあげてゐるといふぢやないか

さうかネ、然し決算には赤字の時があつたらしいよ

けれど、この頃はそんなことはないよ、昨年暮のボーナスだつて相當なものだつたよ、あすこの若い社員で年末に七八百圓の買物をしたのさへ現にゐるぢやないか、貯金もあらうが、豪勢

なものだネ

さうかネ、然しあれだけの屋台骨をつくり上げて死んだ久富季九郎といふ人は傑物だつたと思ふ、今の社長は誰だい

久富藤九郎君ぢやないかネ

ホホウ、然し實際の仕事は久富二六君がやつてゐるらしいぜ

とにかく揃つて守成的な腕をもつてゐる子供を残した点でも、死んだ先代はエラかつたと思ふ

それはさうだネ、藤九郎君にしても職夫供給の仕事のほか、製氷事業もやれば、近頃は上津役村から石炭を採掘するため久富礦業所を設けたり、有田焼で發動機の部分品もつくらせて輸入防過をやらうとしたり一寸毛色が變つてゐる

二六君だつて随分變つてゐるぜ、事業經歷からいふに淺いやうだが、信念的にはがツチリしてゐる、ハキ／＼やる、話は結論的な点だ、つまり理性に勝つた人だネ、やるこゝろが几帳面で、些事も苟くせない、若いがよく氣が付き、活動的であり、いつも走り廻つてゐる、研究心も旺盛

で常識に富んでゐる、考古趣味はあり、國學を好み、陶藝もやれば、文筆もこなす、繪でも一寸素人放れしてゐる、歌も讀めば句もつくる、寫眞も撮れば花もつくる、文字通り八方達藝かネ

僕の驚いたのは君の話題に富んでゐることで、どんなことでも一つの意見をもつてゐる、請負事業には経験が浅いなど見えてゐる向もあるが、君の筋の通つた話には一應敬服させられる、事業の經營的才能も、これからますます磨きがかかつて光彩を放つ時代がくる、やり方が奇麗である、はつきりしてゐる、八幡の青年事業家で、美くしい半面をもつてゐる点からいへば末松清一君と久富二六君が双璧だネ、何も無暗に賞めるわけではないが、金の使ひぶり例へば公共の寄附なども奇麗だぜ、あゝいふ金持になるとなか／＼金の使ひ方が難かしいんだよ、八幡だつて金持でいつも惡評の焦点に置かれてゐる男だつてあるからネ

同感だ、二六君の特性は誠實なところにある、人に會つても決してイヤな氣持ちを與へぬ、如才のないところもあり、そして常に計畫をもつてゐる、日々の仕事のことでも常に工夫を加へてゆく、親父の仕事だから、そのまま平凡に踏襲してゆくといふ氣性ぢやない、そこが君のいいところではないかと思ふ

もう一つの強味は久富の仕事が宛然一つの家族のやうなところにある

それだから儲かるといふ筆法かネ

實質的に仕事を支配してゐる正司亮次君はいい人物だと此間も製鐵所で話が出てゐた、僕はまだ御本人を知らぬが、近代的な事業人だといふ噂があるが――

さうだよ、やはり久富一門の人で、大學を出てから明治銀行の京都支店長をやり、緻密な頭と情味ある性格はもつて來いだ

銀行屋で苦勞してきただけに人間性の機微に觸れてゐる、圓熟いふか、つまり人間の厚味ができてゐる、いまの仕事には六年位しか経験がないが、結局仕事は人間の問題で一生かかつても手に入らぬ人もあれば一年で呑み込める君のやうな人もあるしネ

私は正司君のこゝで感心したこゝが多々あるよ、何でも君のサラリーマン初期時代、友人が金に困つて相談にきたが、君も下宿の身で五十錢が大金の頃さ、氣の毒に思つて自分の一番いい洋服を質に入れて使ひ給へと貸してやつた、友人は泣いて君の友情を喜んだ、ところがその晩、君の下宿が不在中すつかり焼けてしまつた、歸つて君は呆然としたことと思ふ、然しおかげで一

張羅は友人に貸して置いたので数日後、質受けして返してきたので助かつたといふことさ、君はそのことを泌々述懐して、他人には出来るだけのこまはして置くものである、といった、聞くだけでも美しい話ではないか

オオもう正午ぢやないか

長話になつたネお神輿をあげやうか、ぢや失敬

阿部彌一君とはどんな男か

好潮に掉した八幡の幸運兒？

『整理屋』の修養に培はれた半生

軍需インフレの波にのつて鐵都八幡で叩き上げた惺巧人も決してすくなくない。然し拮据十年、誠實にして卓抜な事業經營が、偶々この時潮に幸され、愉快な實を結んだ点に於て、阿部彌一君の如きは、八幡製鐵所をめぐる事業人として特筆に價する存在である。

昨年八幡市の多額納税者番付？が發表された時、その横綱格を占めた君の名を見て、多數の市民

はびつくりした。それ程君は有名でなすぎた、地道な一介の鐵屋さんであつた。臨目もふらずコツ／＼堅實一天張りでやつてきた『阿部商店』など、關係筋の人間でない限り知らう筈がなかつた。

x

君は『所謂商賣人臭くない商賣人』である。多年、鈴木、安宅と大手筋の第一線で練へ上げてきた才腕は、どこか仕事の『やり口』にアクの抜けたところがあつた、顔に似ず商賣度胸がありやりかけたならば徹底的にやる、岡山縣人特有の性格が、そこに多年の修練も加つて、曾て商賣で損をしたことがないといはれる位、的を外さぬところに君の身上を見出すことができる。

商賣人特有の冷たさがない、言ひ換へると温味のある人間である。温和——情誼さうしたもの横溢する型である。徒らに太つ腹めいて、さて仕事をやらせて見るミスグ底をつくやうな人間ではなく、チャンスを握つたら一際外さぬ巧者と天稟の『押し』が、おそらく君今日の成果を齎らしたのでないか。

平沼首相や、宇垣一成や、常の花や、人見絹枝などを生んだ岡山から巣立つた君は、當時事業界に權勢を揮つた『鈴木商店』に入つた。どの部門の仕事をやらせても一通りはやつてのける、遣りつ放して手のつけられぬやうになつた仕事の尻拭ひにいい手附を見せたといふ變り種で、そこを見込まれて亂脈に陥つた横濱出張所の整理を命ぜられ、アツといふ間に立直らせサツサミ引揚げて來て男を上げた。

かくして君は独自の采腕によつて特異の地歩を築いていつた。

『整理屋の阿部』——そんな噂が傳へられた程である、考へて見給へ、二十台の若さで、そこ迄やつつけた君のどこかに、やはり常人の模倣し難い、傑出した鋭角を見出すではないか。

氣に喰はぬと早速『やめさせて戴きます』と短刀直入である。それは自信に滿ち過ぎた若者の街氣ではなく、仕事に責任をもつ人間が進退に賭けた『確信』の表示である。

そこを重役に買はれて『一つ九州へ行つて見ないか』といふわけで君の八幡生活が昭和二年から初まる。

鈴木・安宅ミ君の事業歴は相當永い、もう不惑を越ゆる、所謂脂の乗つた時代である

『阿部商店』に獨立させてから四年、そしてこの四年間が君を基礎づけた最も感銘の深い期間でもある、十年の八幡生活が、製鐵所を中心とする鋼材販賣の眞諦を把握して餘すところがなかつた。縦横の機略と骨膽の努力が集積されて遂に君の成功する日が來た。

『私は全く運のよい男でしたよ』

君は泌みくく述べ懐する、一片の自負もなく、謙虚そのものなかに、君の事業人としての美しい斷相を見ることが出来る。

好漢、病には勝てず、胃を患つて、居を花尾山裾に求め、仕事に保養のバランスに苦んでゐる然し氣魄は依然として失せず、暖衣空しく財帛に眠るなどといふ柄ではなく、鐵屋として八方手を擴げる外、果樹園を自ら汗して開拓するやら、タクシー屋を初めるやら、二三事業会社の重役に買はれるやら、そして今日は八幡、明日は大阪と活躍至らざるなしである。更に口を開けば『諸君何か、い事業はないか』ある。半病人？にして斯くの如し、また君の躍如たる面目見るべしである。

八幡に返り咲いた

鳩山新工場課長

北海道落ちの吉田友輔君

期待さるる齊藤理事の活躍

日鐵異動評

日鐵今次の異動で、八幡の工場課長吉田友輔君が、建設途上の北海道輪西の庶務部長に轉出した、部長さんといつても、八幡の部長級とは違ひ、凡轉といふところ、八幡時代、大した足跡はなく、二瀬の庶務課長から、八幡の勞務課長にやつてきて、安永工場課長の庶務部長昇進のフトをうけて工場課長に納つたもの、愉快な男の割に内面的に官僚肌らしい臭味ももつてゐた、『二瀬小唄』をレコードにモノしたりした男だが、工場課長としては光らず、安永庶務部長の蔭にばかり動いてゐた感を與へた。

二瀬時代、勞務係りをやつてゐた田口貞廣といふ若いのを、八幡の取締掛主任に引張つてきて悪評をうけたり、増産に伴ふ定期工募集の成績が香しくなかつたり、どちらかといへば寧ろ、當時富士製鋼へ追はれた鳩山正夫君を工場課長にして置いた方が無難だつたかも知れぬ。

果せる哉、吉田の後任に鳩山君が工場課長にやつてきた、本人は富士へ行く時、事務部長として轉出する考だつたが、行つて見るに事務部長は所長の兼務で、その下の事務課長だつたので、内心餘り嬉しくはなかつたやうだつた、容積からいへば八幡の福利課長の方がウンと仕事の仕榮へがあつたからだつた。

後任の鳩山君は、よく働く男である、岡山人特有の粘りをもつてをり、上司のウケもよく、同僚との肌障りも悪くない、モトの古巣へ舞戻つてきた、錦を飾るやうな感じも出まいが、八幡の工場課長なら、末の見込みもあり、日鐵化により中央大學出の肩書も大してヒケ目ではなく、丁度働き盛りではあり、ハマリ役であらう。

八幡の會計課長に本社會計課付主事だつた大梁涉君がやつてきた、兼二浦の會計課長をやつた固い男で明石前課長の後釜には、取柄があり、地味な仕事だけに無難な性格をとる

388
255

本社會計課長になつた明石徳市君は八幡の古い焦げつきで文字通り温厚の君子人である、寧ろ細心過ぎる位大事をとる点で、お役目柄申分があるまい。

本社資金課長の太田民治君、東京鋼材の重役になつた越山老のフトを襲つて財務課長へ轉じ資金課長が市川經理部次長の兼務となつたのは、敢て資金課を輕んずる譯ではないが、太田、明石の振合上、元來明石君が會計一本槍の男だつた關係から適材適所主義の結果とも思へる。

理事、參事と夫れ——昇進もあつたが、北支にゐる齋藤壯一君の理事榮進は、北支出張所長の面目からいつて當然で、近く北支開發會社の子會社たる北支製鐵會社設定の上は、同社入りは、また外れぬところ、よろしく彼の如き人材は大陸でウンと働かせるに限る。

多年兼二浦製鐵にゐただけ外地稼ぎは經驗があり、柔道五段の猛者、性格から見ても輸出向であるところが彼の身上でもあらう。

昭和十四年二月二十五日印刷納本
昭和十四年三月六日發行

渡邊製鐵所長何處へ往く

定價金拾錢

著作發行者 中井

八幡市祝町一丁目 倭人

印刷者 長尾

八幡市祝町一丁目 勘三郎

印刷所 八幡

八幡市立町一丁目 印刷所
八幡市立町一丁目

發行所 八幡市祝町一丁目 洞海日日出版部

八幡市北本町三丁目

山九運輸株式會社

八幡支店

電話 一、六二八番

支店長 取締役 岡崎 眞一

次長 主事 松永 猛雄

會計主任 主事 吉住 恒喜

終